

科目コード	S21102	科目名	言語聴覚障害診断学				
履修区分	必修	開講期	1年前期	授業回数	10回	単位数	1単位
担当者	西村 祐一						
授業の概要	言語聴覚障害の診断に関連する基本概念を習得し、適切な臨床活動を行うための基礎的な能力を養う。言語聴覚士の臨床の流れ、評価における検査の位置づけと意義、観察評価や情報収集の重要性、検査に関連する基本概念を座学やアクティブラーニングを通して習得する。						
DPとの関連	人間を広い領域から捉え、人を愛する心と専門技術を統合できる能力を身につける						
	言語聴覚障害学について深い専門的知識を修得し、それを臨床において適切に応用することができる能力を身につける						
	職務遂行に必要な社会性、倫理観、専門職業人としての自覚を身に付け、多様な患者、家族、医療・福祉関係者等と円滑なコミュニケーションを取ることができる能力を身につける						
	複雑で多様な障害について常に科学的に探究する姿勢をもち、積極的に自己研鑽し続ける能力を身につける DP：ディプロマ・ポリシー（修了認定の方針）= 修了までに身に付けるべき資質・能力						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 言語聴覚士の臨床の流れを仮説検証のプロセスと結びつけて説明できる</li> <li>2 言語聴覚療法における評価・診断の目的と意義、方法について説明できる</li> <li>3 信頼性・妥当性、感度・特異度、閾値、尺度等、検査に関わる概念を理解し、説明できる</li> <li>4 単一事例実験計画法を用いた訓練効果の検討法を理解できる</li> </ol>						
履修上の注意事項	遅刻は2回で欠席1回扱い、開始後20分以降は欠席扱いになりますが、やむを得ず遅れた場合も参加してください。						
授業計画	回数	講義内容【担当教員】				事前・事後学修	
	1	言語聴覚障害の種類と特徴（P.1～P.5）				該当箇所の予習、復習（150分）	
	2	評価・診断の基本的概念（P.5～P.8）				該当箇所の予習、復習（150分）	
	3	ICFと言語聴覚療法、評価・診断の倫理、障害特性に応じた評価・診断（P.9～P.11）				該当箇所の予習、復習（150分）	
	4	評価の技法（P.11～P.14）				該当箇所の予習、復習（150分）	
	5	評価・診断の過程（P.24～P.33）				該当箇所の予習、復習（150分）	
	6	評価・診断の過程（P.24～P.33）				該当箇所の予習、復習（150分）	
	7	臨床データの解釈（P.15～P.21）				該当箇所の予習、復習（150分）	
	8	臨床データの解釈（P.15～P.21）				該当箇所の予習、復習（150分）	
	9	言語聴覚士における研究、単一事例実験計画法（P.260～P.263、P.268～P.269）				該当箇所の予習、復習（150分）	
	10	まとめ				該当箇所の復習（150分）	
成績評価方法	期末試験100% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。						
教科書	書名・著者（出版社）					ISBNコード	
	言語聴覚療法 評価・診断学【深浦順一/植田恵（編）】（医学書院）					978-4-260-04148-5	
参考書	言語聴覚障害学概論 第2版【藤田郁代（編）】（医学書院）					978-4260006583	
	図解言語聴覚療法技術ガイド 第2版【深浦順一（編集主幹）】（文光堂）					978-4830647017	
教員からのメッセージ	言語聴覚療法についての学習の土台となる科目です。専門用語については、毎回復習してその都度身に付けてください。						
教員との連絡方法							
実務経験のある教員	病院において臨床経験のある言語聴覚士が、実務経験を活かして講義を行う。						